

□11月9日説教(隅野徹牧師)短縮版
「天使のようになる」マルコ12:18～27

今日の中心箇所として、25節を挙げさせていただきます。イエスは「死者の中から復活するときには、めとることも嫁ぐこともない」と言っておられます。これは誤解して取られることが多い言葉だと感じます。一番多い誤解は、天国にいったら、地上で婚姻関係にあった人と一緒に暮らせないのかという考え方です。しかし「めとることも嫁ぐこともなく」を寂しいとか、逆に喜ばしいと思うのは、復活をこの世の人生の延長上に見ているからです。

イエスのこのお言葉の大事なポイントはむしろその後の、「天使のようになるのだ」にあるのです。復活において私たちも天使のようになるとは、痛みも苦しみもなく神と完全に一体になるという恵みを受けるのだということです。復活の命においてめとることも嫁ぐこともないとは、今のこの世における私たちの人間関係が、復活において神のみ手の内に置かれることによって新しくされ、完成されるということではないでしょうか。

人間関係の完成とは具体的にどうなるのか。それは私たち地上に生きる人間が推測することは難しい、ぼやけたものです。人間関係だけではなく様々な事柄において完成する、と聖書は教え約束します。それは人間の物差しで測ったり、理解したりすることはできません。しかし私たちのために十字架にかかり、復活して下さったイエス・キリストは、私たちを同じように復活の命へと導いてくださることは間違いのないことです。その復活の命を天にいただいたとき、すべての未完成だったことが完成すると聖書は約束します。

現世ご利益主義に走るのではなく、見えないもの、分からないものにそれでも信仰をもって委ねていく生き方が、天での永遠の命に繋がることを覚えてまいりましょう。(終)